

2014年
第1号

らんふあんニュース

発達が気になる子どもとその保護者を支援するNPO法人らんふあんぷらざの広報誌です

楽しかった夏祭り 8月19日

夏休みにらんふあんで夏祭りを行いました。参加したみなさん、ありがとうございます。みんなが協力しあったので、とてもすばらしい夏祭りになりました。昼食を作ったり、楽器を作ったり、その作った楽器で演奏をしたりしました。協力したゲームも大いに盛り上がりましたね。はじめて会ったお友だちや先生と、声をかけあって、助け合って楽しく過ごしました。(大橋すみれ)

太鼓を作ったよ

世界に一つだけのオリジナル太鼓を作りました！子供達と、100円ショップで購入したゴミ箱やキラキラテープなどを使った太鼓を作りました。「オレンジのテープない？」「ごめん。オレンジ色は用意しなかったわー」その子は気にすることなく、赤のテープで代用しました。自分のイメージを心の中で確認しながら作る子、職人さ

んのように器用に手を動かす子、一つ一つ、大人に確認しながらゆっくり作る子、先輩の高校生が、手がとまった子の元に駆けつけます。一人で作りたい子には、後ろで見守っていました。思い思いのスタイルで、太鼓づくりに夢中の子供達、全員仕上げました。楽しかったね！。(田町真紀)

音楽の楽しみ

最初に、トーンチャイムという楽器を使って、全員で音を聴き合う活動をしました。皆がよく知っている『大きな古時計』も演奏しました。その後、自分達で作った太鼓を使って、リズムを真似したり、自由に叩いたり、音のやり取りをしました。『風になりたい』の曲に合わせて太鼓を叩いたところ、子供たちの中から自然と『チューチュートレイン』のパフォーマンスが飛び出し、多くの笑顔が見られました。(郡恵)

NPO法人らんふあんぷらざは、平成16年4月に発足しました。丁度10年を超えました。当初よりも指導プログラムは増え、スタッフも大幅に変わりました。現在のスタッフは専門職が大部分で、支援方法などの学習意欲やアイデアは素晴らしく、また、チーム

らんふあんぷらざからのご挨拶

ワークも秀逸です。夏祭りや終了式では、スタッフのアイデアとチームワークが結集しました。子どもたちの成長にも目を見張るものがありました。一般社団法人日本ディスレクシア協会の立ち上げが更に、指導の幅を広げるものと期待しています。(加藤醇子)

ランチを作ろう

「自分で作る」ってワクワクしますね。「失敗するかも」という不安感をを抱きながらもやってみたい気持ちがあることを大切に、喜び・達成感を味わって貰いたいと計画しました。高校生のアイデアと協力ですくすく出来ました。

(後藤郁子)

子ども達の発表

子ども達は、大勢の前で話すことに苦手意識があります。けれども、太鼓という、話し方の手がかりを得て、自分で工夫したことを説明し、感想を述べることができました。話し終わると、皆ほっとした表情に。今の学習指導要領では、言語活動が重視されています。

子どものころを育てる連続講座

平成24年度から毎年5回シリーズで開催しています。赤ちゃんがおなかにいるときから思春期まで、心がどのように作られるのか、様々な発達課題とはどのようなものか、どうすればそれをうまく乗り越えられるのかについて詳しくお話しします。

小さなお子さんの保護者はこれから起こることについて心構えを持つことができます。

小学生や思春期のお子さんの保護者は子育てを振り返ってうまくいかなかったところをやり直すための手がかりが得られます。子育て

この経験は必ず学校での学習のステップアップに繋がります。 (安藤壽子)



学校の先生が訪問に！

8月5日東京都大田区で養護教諭をされている十数名の先生方がらんふあんぷらざを訪問され、7日にはSST指導を見学されました。らんふあんぷらざの利用方法を確認したり、学校の保健室でできる子どもたちへの対応を話し合ったり、有意義な時間となりました。(小室愛枝)

てはいつからでもやり直しができます！気軽に質問できる雰囲気大切にしています。楽しく学びましょう！

(酒井道子)

お父さんお母さんのためのフリートークサロン

「同じような悩みを抱える保護者同士で安心して悩みを話し合える場所がほしい」という保護者の声からフリートークサロンが生まれました。経験豊富な専門家と一緒にほっとできるひと時を



(酒井道子)

各指導プログラムについて

各指導プログラムについて担当者から紹介します。
<ソーシャルスキルグループ>

①高学年グループ

今年度のグループ目標は、適切な言葉、協力、折り合い。ゲームや話し合いを通して、自分をコントロールしていく力を身につけます。少し英語も取り入れています。(大橋すみれ)

②低・中学年グループ

友達との関係を学ぶゲーム活動・ロールプレイを行いながら自分の感情に気づく・姿勢や体幹を意識する運動・聞く姿勢を身につける。以上を年間目標として行っています。

(吉川成美)

<リテラシーグループ>

①2・3年グループ

分かち書きや行間の開け方等に配慮して読みやすく工夫したテキストを用いています。正確に読むこと、漢字を正しく書くことを中心に、皆、一生懸命取り組んでいます。(原恵子)

②高学年グループ1

理科や歴史上の有名な人物についての読み教材を用いています。ある程度の分量のテキストを正確に理解して内容をとること、漢字熟語の語彙を広げることをねらいとしています。中学に向けて、英語の音になじむ取り組みも始めました。

(原恵子)

③高学年グループ2

6年生男子1名でスタートした高学年リテラシー指導ですが、現在2名になり、90分をフルに使い、楽しく学んでいます。主体的に読むことを大切に、助成金で購入したiPadで調べたり発表したり、辞書の引き方

も上達し、難しいテキストにも興味をもって取り組んでいます。(安藤壽子)

<造形ワークグループ>

バランスをテーマにした空間構成や、自作した色水から発展した水玉画、スライム等を制作した。対話を重ねながら行うグループ活動は、成功体験や表現の楽しさに繋がっている。

(楢田拓哉)

<ミュージックセラピー>

いろいろな楽器と一緒にまたは一人で演奏し、聴く・見る・表現するなどのスキルを学んでいます。歌を歌うことで、はっきりとした言葉の発音や滑舌にもつながっています。(井岡礼子)

<個別指導>

①小学生個別指導

個別指導では本当はグループ指導を受けさせたいと思う方が多いようです。発表が苦手な人は実は聞くことも苦手な場合があります。それに気を遣わずに済む快感があります。(後藤郁子)

②英語個別指導

動機づけを大切に、具体的な目標を立てて内容を編成。発音と綴りの学習にはフォニックスや、学校のテストと英検の対策も実施。(古山登紀子・品川裕香)

③中高生数学個別指導

数学は楽しい教科だと思えることができるように、例えば、正の数・負の数ではトランプを使ってゲームをしながら指導しています。

(松原均)

中高生連続講座

「『働く』ために必要なこと～ 将来、就労不安定にならないために」

取材をしていると通級指導教室等で学んだのに、社会に出てから不応を起こす若者が増えたと実感。そ

こで犯罪学のエビデンスをベースに「将来、社会不応を起こさないために必要なことは何か」を学ぶ講座を中高生向けに開催(長期休暇中/3時間×2日)。自己理解や自己管理、他者視点、協働、法の遵守等を理解し、実践するコツを講義やワークショップを通して学ぶ。(品川裕香)

ナイハウス教育センター訪問記

8月初旬、英語指導の古山先生とリテ指導の安藤の二人で、アメリカ南部テキサス州郊外にあるナイハウス教育センター(Neuhaus Education Center)を訪問しました。ナイハウスは、木材とガラスが組み合わされた明るいデザインの2階建ての瀟洒な建物で、受付で歓迎を受け、副理事長のスザンヌさんからセンターについての説明を得ました。

ナイハウス教育センターは、オートン・ギリング法による読み書き指導を実践・研究する教師や保護者によって1980年に設立され、現在も、教師や保護者、当事者のためのプログラム及び啓発活動を行っています。2011年にシカゴで開催されたIDA(国際ディスレクシア協会)会議で知って以来、一度は訪れてみたいとの思いを抱いていました。今回の目的は、教師教育プログラムの一つである“Developing Metacognitive Skills”(メタ認知スキルの育成)に参加することでしたが、音読から読解まで、自分自身の読みプロセスを子どもが主体的に意識しながら読むためのスキルをどのように育てるのか、という内容で、大変有意義な研修となりました。今後も実践と研究を重ね、らんふぁん

での英語指導やリテラシー指導に生かしていきたいと思います。(安藤壽子)

ディスレクシア指導研修セミナー

ディスレクシアとは、知的に普通であるのに、読みが困難で、書くことも苦手な読み書きのLDのことを言います。平成24年から年2回、8月と3月の土日2日間朝から晩までびっしり、講義と事例検討(各班に分かれて指導アイデアを出す)やELC(簡易音韻・音読検査)の研修をしています。対象は、ディスレクシアの指導に当たる、学校の先生、心理士、言語聴覚士、作業療法士、塾の講師、医師などの方々です。少しでも評価や指導について啓蒙したいと思っています。5月に、一般社団法人日本ディスレクシア協会を設立しました。(加藤醇子)

本人への心理結果の知らせ方

「本人への心理検査報告書始めました！」
 ープロフィールカードー

WISC-IV・WAIS-III検査からわかった「お子さんの得意なこと、工夫すると良いこと」について、A41枚程度にまとめお渡しします。内容はお子さん自身が読みやすいよう年齢や特性に応じて工夫しています。お子さんも何故検査を受けたのか疑問に感じていることでしょう。6月より始め好評を得ています。ご希望は結果面談で!(金岡水帆子)

NPO法人らんふぁんぶらざ
 川崎市幸区中幸町3-3
 2-7光和ビル5F
<http://www.npo-lenfantplaza.com>
 2014年10月10日発行